かみかわ有機農業ネットワークだより【第４１号】

事務局　上川総合振興局産業振興部農務課
上川農業改良普及センター
上川農業試験場
発　行　令和７年（2025 年）８月

■令和７年度かみかわ有機農業ネットワーク現地検討会を開催しました■

- 日時:7 月 11 日(木)
  13:30～16:00
- 場所:(有)営農企画(比布町)
- 参加者:37 名

上川地域の有機農業の発展を目的とし、現地検討会を開催しました。今回は、地域資源を活用した肥料製造と大規模有機農業に挑戦する有限会社営農企画を訪問し、堆肥工場やほ場視察を通じて、持続可能な農業のヒントを学びました。

1　農場概要　　少人数で大規模有機農業を実践

- 業務内容：農産物生産販売／受託生産／農地管理／加工販売
- 労働力：役員２名＋正社員３名
- 作付品目と面積
  - 秋まき小麦　52ha（内有機 JAS 23ha）
  - 大　　豆　85ha（　〃　56ha）
  - 小　　豆　3ha（　〃　3ha）
  - そ　　ば　60ha（　〃　33ha）

  合　　計 200ha（内有機 JAS115ha）
- 特徴
  - ✓ ICT 対応大型機械で大規模有機農業を実践
  - ✓ 乾燥調整施設・定温倉庫を完備し年間販売
  - ✓ 有機 JAS 認定工場で製造～販売を一貫し高付加価値化

今城専務取締役

2　地域資源を生かした堆肥工場など視察

年間製造量＝１０,０００トン（大豆、小麦　500ha 分）

持続可能な農業実現のため、近隣のバイオマス資源（きのこ廃菌床、鶏糞、もみ殻、馬糞、野菜くず、バイオ炭など）を活用することで、地域資源の循環と環境負荷低減、さらには、穀物生産で利用可能な低コストの有機特殊肥料とすることを目指されています。

もみ殻からは、バイオ炭や籾酢液を製造し、J-クレジット創出も計画しているとのことでした。

↑ 堆肥工場説明
← 堆肥の感触確認

堆肥の散布は、比布町内へは堆肥工場横でマニュアスプレッダーに直接積載し、ほ場まで移動して散布されています。

堆肥販売は、ダンプ、フレコン、ペレットを想定しており、ペレット化は現在試作中とのことでした。

肥料工場は地域単位で整備するのが理想と考え、モデル事例になればと考え取り組んでいるとのことでした。

堆肥散布用マニュアスプレッダー

3　ほ場視察

【大豆】

畝間が早く塞がるように 45 ㎝の狭畝栽培に取り組まれています。カルチ作業のため、トラクタ輪距 1.8m に改造、前後輪を特殊タイヤに換装し、枕地の踏み倒しを軽減しています。「種子コートなどの工夫でタネバエ被害を抑制している。マメシンクイガ被害は、理由はよくわからないが、慣行より少ないと感じている、収量は地域の慣行より若干劣る程度」とのことでした。

大豆ほ場の視察風景

【秋まき小麦】

令和７年産の秋まき小麦から堆肥工場で製造した堆肥を使用しています。「プラウで前作残渣混和⇒パワーハローで砕土⇒堆肥散布⇒浅耕⇒播種」されています。は種前に散布した堆肥が基肥の役割をしており、追肥は行っていないとのことでした。

【その他】

雑草が問題化した際は、生育の早いそばを作付けし抑草対策としていました。

秋まき小麦ほ場の視察風景

現地検討会では、地域資源循環 × 大規模有機農業 の可能性を学びました。

低コスト肥料の安定供給を目指す営農企画さんの取組は、今後のモデルケースの一つとなることでしょう。

【今後の予定】 地産地消収穫祭　　～出店募集中です～

- 9月　7日（日） 10:00～16:00 ウエスタンパワーズ（旭川市永山）
- 9月17日（水）　9:00～13:00 コープさっぽろシーナ店（旭川市永山）